あ と が き

関西大学学生センターが実施している「学生生活実態調査」は、昭和30年度に第1回の調査を行って以来、半世紀を超える歴史があります。学生生活実態調査は昭和63年度以降から異なった調査形式をローテーションで実施することとし、平成15年度まで毎年実施していましたが、平成16年度以降から隔年の実施となっていました。しかし、学生生活の実態が多種多様に変化していることから、学生の実態をより的確に把握するため、平成21年度から再び毎年実施しています。この間蓄積してきた調査結果のデータは膨大な量であり、本学としましても貴重な財産として保存しています。

この調査は、昭和63年度以降3種類の異なった調査形式をローテーションで実施しております。1つ目は、日本私立大学連盟の実施する「学生生活実態調査」（全国調査）との比較に主眼を置いた調査です。2つ目は、経年比較を目的として、同様の質問項目を繰り返して行う「本学独自調査」です。そして3つ目が、今回実施した「特別テーマ」です。

特別テーマでは学生の気質や考え方、生活習慣の変化など、基本項目だけでは測ることの出来ない情報を得るために、調査する年の社会情勢を踏まえて独自に調査項目を設定しています。今回の調査では、近年社会的にも問題になっている薬物に関する項目や、本学学生のマナー・モラル及び悩みや相談などについて調査しました。

今回の調査結果で注視すべき事項としては、マナーに関する項目が挙げられます。「学内における自転車の駐輪マナーについてどう思いますか？」という問いに対して、「良い」と回答した学生はわずか11.8%でした。また、「学内で行う各種啓発行事に関して、あなたはどの啓発内容に対して強化すべきだと思いますか？」という問いに対して、50.4%の学生が「マナー、モラルに関すること」と回答しています。学生のマナーやモラルの問題については、喫煙マナーや交通機関でのマナー、情報化社会におけるインターネットマナー等、本学としても学生諸君に対して社会人として最低限意識してもらう必要がある事柄であると考えており、今後も平成19年度より実施しておりますマナーアップキャンペーンをはじめ学生に対する啓発活動を継続していきたいと考えています。

また、悩みや相談に関する項目において、「あなたは学生生活について不安や悩みがありますか？」という問いに対する回答を10年前の平成15年度と比較すると、「性格や能力」「友人や知人等との対人関係」について悩んでいると回答した学生の割合が10%近く高くなっています。また、「就職や将来の進路」について悩んでいると回答した学生は84.1%に及びました。ストレス社会といわれる現代において、学生の悩みは尽きることがありません。悩み苦しみ、そしてそれを解決しようともがくことで学生は成長していきます。しかし、本学としてもどのように学生に支援をしていくことが出来るのか、模索していく必要があると考えています。

この学生生活実態調査によって、本学学生の学生生活に関する様々なことが統計的に明らかになりました。本学としましては、この調査結果を貴重な資料としたうえで学生生活や教学における問題点等を改善するために有効に活用していきたいと考えています。

最後になりましたが、本調査を実施するにあたりご協力いただいた関係者の皆様をはじめ、アンケートに真摯に回答いただいた学生諸君に厚く御礼申し上げます。